

特別寄稿『シリーズ：「50歳からの地域デビュー応援講座』を実施して』

## ～第3回「地域再発見！ 芸術文化、スポーツでまちづくり」～

コミュニティビジネス総合研究所代表取締役所長：細内 信孝

### 1. はじめに

昨年7月からスタートした『50歳からの地域デビュー応援講座』は、宇都宮市中戸祭町にある栃木県労働者福祉センター主催の全5回の連続講座（連合栃木総合生活研究所共催）である。前回レポートした当講座の第2回に引き続き、今回は第3回の講座内容を紹介する。定年退職が見えてきた勤労者や熟年世代の勤労者が、地域活動やボランティア活動において、今後の地域生活を楽しむことの参考にしていただければ幸いである。今回は、当講座で使用したスライドを少し多めに挿入しながら、絵コンテによるストーリー展開で、分かりやすい解説を心掛けて行きたいと思う。

なお本紙における今後のレポートは、次回の第4回は「キャリアを活かして地域に貢献」を予定し、最後の第5回は「第2のキャリアステージは地域にあり」で、まちの仕事おこし、コミュニティ・ビジネス（CB）の基本的な考え方やCBの先進事例、地域のニーズやシーズに立脚したCB起こしについて紹介していきたいと考える。これらのことは、今後の地域社会の在り方を鑑み、自立的な市民社会の構築を念頭に入れたものであり、国の施策の一つである“新しい公共づくり”にも繋がるものである。

### 栃木県労働者福祉センター主催『50歳からの地域デビュー応援講座』カリキュラム

開 催	テ ー マ	内 容
第1回	今こそ、地域デビューのとき	50歳からの地域デビュー心得
第2回	地域への関わり方 一人で？ 仲間と？	ボランティア、NPOなど関わり方の カタチを探る
第3回	地域再発見！ 芸術文化、スポーツでまちづくり	アート、音楽、スポーツ、歴史、観光、 まずは自分の関心分野から
第4回	キャリアを活かして地域に貢献	地域の安全・安心を守る、福祉に携わる、 地域のニーズに応えてやりがいを実感
第5回	第2のキャリアステージは地域に あり	まちの仕事おこし、コミュニティ・ ビジネスの考え方を学ぶ

農作業で地域生活を楽しむ

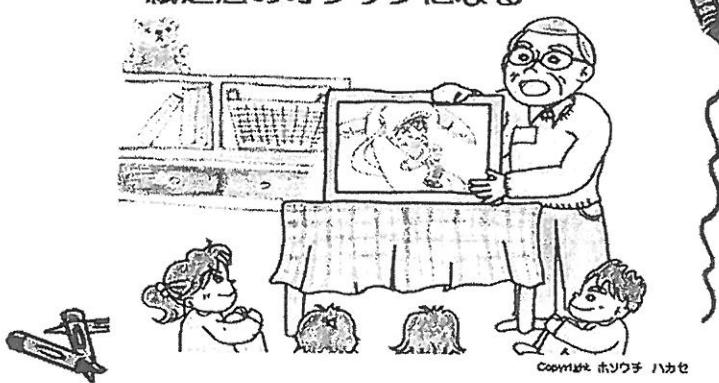
生活を楽しもう！  
～等身大の野菜づくり～



Copyright ホソクチ ハカセ

子供たちとのふれあいで地域生活を楽しむ

生活を楽しもう！  
～紙芝居のオジサンになる～



Copyright ホソクチ ハカセ

趣味の世界で地域生活を楽しむ

生活を楽しもう！  
～自分用の茶器をつくる～



Copyright ホソクチ ハカセ

## 2. 地域再発見！

### 1) 「まち歩き」でまちの魅力を再発見しよう

筆者は、数年後に定年退職を予定している方には“第2の人生”的活躍の場として“地域”があることをお示しし、自分の住む地域の足元を見つめ直してみましょう、と呼びかけている。特に地域との関わり合いが少なかった勤労者には、まずは地域を再発見することから始めてみましょう、と言っている。なぜ、地域の資源、地域を再発見することが大切なのか、というと、勤労者にとって退職後、会社から離れ、地域で暮らす時間が圧倒的に増えるからである。地域で暮らすことの原点は、そこに等身大の生きるすべ（生活術）があるからである。よってそこで暮らす人々は、地域にしっかりと根をおろし、地域に向かって大きく目を見開く（地域を再発見する）時を迎えているからである。そして、そのことは、地域という“大地のキャンパス”に思いっきり“地域生活を楽しむ”という絵を描くことに他ならないからである。こうした地域再発見のための第一歩は、「まち歩き」から始まり、まちの魅力をもう一度再発見してみよう、となるわけだ。まちの再発見をスムーズに進めるためには、まずは図書館や郷土資料館などで参考となる地域資料を収集してみることだ。明治以来の郷土誌は、どこの町や村でも何度か発行され、時代ごとに地域の変遷が手に取るように記述されている。それらを参考にしてまち歩きを行うのがおすすめだ。また、外に出かける前に、地図上であらかじめルートを確認し、歩いた気分になれるようなシュミレーションも面白いだろう。地図記号を見ながらその存在を確認してみよう。商店街や工場、小中学校や保育所・幼稚園、お寺や鎮守の社（神社）、役所や交番など、どこの町にでもあるようなものが必ず見つかるはずだ。事前に“まちかどインタビュー”などを準備しておくのも良いだろう。その場その場でまちの生の声が聴けて、今後、もし彼らと交流を深めるならば大いに役立つことになるだろう。

「まち歩き」でまちの魅力を再発見

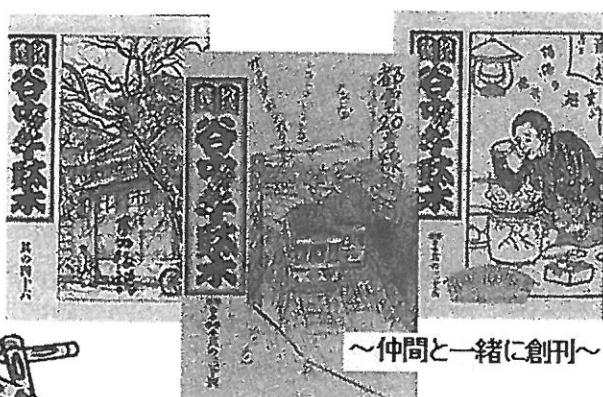


## 2) たくさんある“まちの魅力”を伝えるもの

私たちの住む地域、すなわちまちは、その魅力を伝えるものがたくさんある。こうしたものを一つひとつ発掘していくことが、地域の再発見につながる。例えば、地域で大活躍する女性たちは、子育てを通じてさまざまな地域活動を展開している。東京の古い街並みが残る、谷中、根津、千駄木の地域情報を編集した地域情報誌、通称“谷根千（やねせん）”も地域の子育て中の主婦仲間から誕生したものだ。また、埼玉県の川越市にも“やねせん”に習い、一人の主婦が地元の協力をえて創刊した地域情報誌、“小江戸ものがたり”がある。こうした地域情報誌を利用して地域の魅力に触れてみるのも良いだろう。どこのまちにもミニコミ紙的なものは存在するはずだ。地域探究に向けてはじめの一歩を踏み出す人には、それが有効な手段となることだろう。

——身近な地域情報誌を探してみよう——

### “地域情報誌”で まちの魅力を伝える



東京下町の地域情報を編集した地域情報誌「谷中・根津・千駄木」

### “地域情報誌”で まちの魅力を伝える



埼玉県川越市の川越むかし工房発行「小江戸ものがたり」

まちの魅力がいっぱいの地域カルタ

“カルタ”で  
まちの魅力を伝える



大牟田市民が描いた三池かるたと岩手県花巻の宮澤賢治歌留多

平成18年を境に平成の大合併が進み、3300あった地方自治体が、いまや1700の市町村に統合・合併された。それに伴い合併された旧市町村の地域資源をあらためて知ろうということで、“地域カルタ”が全国各地で作られている。とくに自治体、教育委員会、商工会議所、商工会、高校などが中心となって子供たちにも分かるような絵や文章で、地域の風土や名所旧跡、歴史・文化、スポーツ・芸術、観光・交流などを取り上げ、積極的に紹介している。こうしたものを活用することで、家庭やご近所、町内会や自治会メンバー同士の新たなコミュニケーションが育まれる。そして出来上がったカルタを活用し、カルタ大会を開催している自治体や学校も少なくない。子供達にも地域の良さが自然と伝わるものだ。

市民自ら発信する“手作り通信”でまちの魅力を知る

“手作り通信”で  
まちの魅力を伝える



長野県飯田市のNPO・風土舎が発行する風土舎通信

長野県飯田市郊外に“風土舎”というシニアが主体の“地域おこしグループ”がある。このNPOは、地域コミュニティ内の情報ばかりか、市内外のテーマコミュニティ（環境や農業、まちおこしなど、テーマで集う仲間）の活動情報も、この手作り通信に載せ、毎月のようにミニ新聞を発行している。このように地域情報を自ら発信するもののみ本当の地域文化が生まれるものだ。住民・市民が主体となる草の根のまちづくり活動の原点がこの手作り通信から垣間見ることができる。彼らのまちづくり活動は、海外から視察者が訪れるほど有名になってきている。

コミュニケーションFMから地域情報を得る――

“コミュニケーションFM放送”で  
まちの魅力を伝える



神奈川県葉山町の湘南ビーチFMが発行するコミュニケーション・マガジン

コミュニケーションFM放送の大切さが痛感された今回の東日本大震災（2011年3月11日）だが、全国各地にコミュニケーション・サイズのコミュニケーションFM局がある。コミュニケーションFM局は、平常時には“地域情報のプラットフォーム”的役割を果たす。コミュニケーションFM局の中には、音源だけでなく、地域情報誌を合わせて発行している湘南ビーチFM（神奈川県葉山町、逗子市エリア）のような多メディアの展開をしている先進事例もある。コミュニケーションFM放送は、人間の五感の一つである聴くことのリスニング文化の醸成にも役立ち、顔の見える関係のコミュニケーション形成にも有効なツールとなる。ラジオ放送から素敵な音楽が流れる。これも快適な地域生活をおくる上での必要条件の一つになるだろう。

地域スポーツから地域文化を知る

## “地域のスポーツ”で まちの魅力を伝える

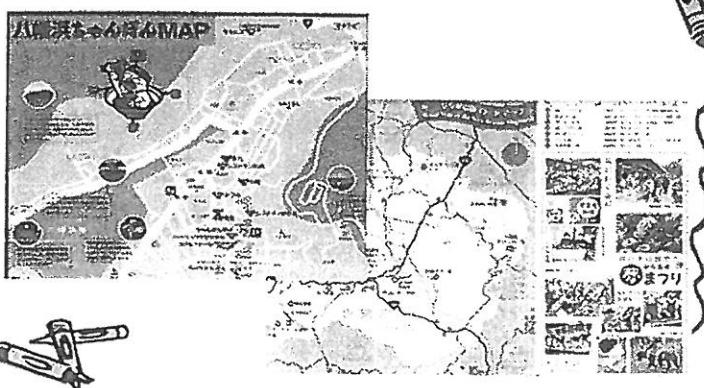


長野県野沢温泉村の野沢スキークラブが発行した記念誌

地域スポーツからも地域文化を知ることが可能だ。長野県の野沢温泉村には、江戸時代から続く“野澤組”という住民自治・相互扶助の組織(惣)がある。スキーが我が国に伝来してまだ100年足らずだが、その黎明期にスキー・スポーツを導入して“地域を活性化”しようとした野沢の若者たちを支援したのがこの野澤組だ。いまでも大正12年から続く野沢温泉スキークラブが存在し、村民を主体にしてクラブ活動が構成されている。そこで育まれた人材が中心となって我が国のスキー・スポーツ文化の振興にも貢献し、1998年冬季長野オリンピック開催にも大きく寄与したという。まさにスポーツという切り口からも地域の文化を語ることが可能なのだ。

まちのグルメマップから食文化を知る

## “MAP”で まちの魅力を伝える

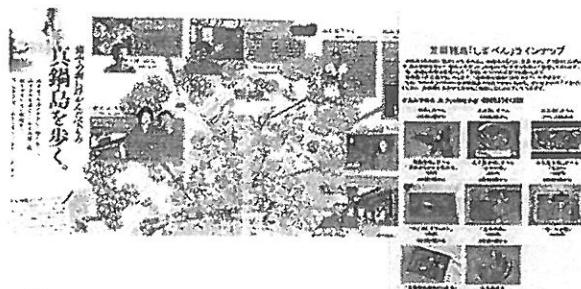


愛媛県八幡浜市のグルメマップ。八幡浜ちゃんぽんを紹介している。

八幡浜ちゃんぽんは、地元の商工会議所青年部を中心にしてはじまった“食のまちおこし”だ。

住民の顔が見えるMAPづくりでまちの活性化

“島民イキイキMAP”で  
まちの魅力を伝える



～島の弁当づくりで仕事おこし～

岡山県笠岡市の真鍋島の紹介と島べんのラインナップ

岡山県笠岡市の瀬戸内海にある笠岡諸島（7島）では、島ごとに島の海産物を活かした“島の弁当”があり、その各島ごとに“島べん”づくりが盛んなところだ。島に住む人々が主体となって起こしたコミュニティ・ビジネスであり、島民の新たな仕事起こしだ。島の生活と経済が一体化した地域活性化の好事例でもある。上記の絵コンテは、笠岡諸島の南端にある真鍋島の住民の顔マップと島ごとに創作された島べんの一覧である。高齢化率が50%を超えるこうした離島でも、顔の見える関係の地域コミュニティと適度な仕事さえあれば、みんなイキイキと心豊かに暮らしていけるものだ。

### 3.まとめ

熟年期にある勤労者や定年退職が見えてきた勤労者のこれから生きるすべ（生活術）づくりとは、上述のように“地域の良さを再発見する”ことから始まるものだ。まずは地域をベースに自分の関心分野から始めて見るのが良い。こうして地域の良さを一つひとつ実感することで、好奇心をふくらませ、地域を一つひとつ丁寧に探究することから、自ずと地域デビューへの道は開けるものだ。そう信じて地域探究を継続することが“地域デビュー成功への近道”である。決して焦ることはない。男性は平均寿命が80歳、女性の平均寿命も87歳と人生90年に迫らんとする時代だからだ。

(つづく)

## 〈ネライ〉

第2の人生の活躍の場として自分が住む地域の足元を見つめ直してみましょう。

まずは地域の資源を「再発見」することから始めましょう。



講座第3回「地域再発見！ 芸術文化、スポーツでまちづくり」の“ネライ”から

### 〈参考文献〉

- 細内信孝著『新版コミュニティ・ビジネス』学芸出版社
- 細内信孝編著『がんばる地域のコミュニティ・ビジネス』学陽書房
- 細内信孝編著『団塊世代の地域デビュー心得帳』ぎょうせい
- 細内信孝編著『みんなが主役のコミュニティ・ビジネス』ぎょうせい
- 細内信孝編著『地域を元気にするコミュニティ・ビジネス』ぎょうせい
- 細内信孝著『コミュニティ・ビジネス』中央大学出版部

### 〈参照ホームページ〉

- <http://www.hosouchi.com/>
- <http://www.cbn.jp/>